

氏名	三宅俊明		
学位の種類	医学博士		
学位授与番号	博乙第1894号		
学位授与の日付	昭和63年6月30日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）		
学位論文題目	自家骨移植を併用した人工膝関節置換術の臨床成績に関する研究		
論文審査委員	教授 寺本 滋	教授 折田薫三	教授 村上宅郎

学位論文内容の要旨

自家骨移植を併用した人工膝関節置換術（TKR）25例30膝につき、経時的に臨床評価及びX線学的計測を行なった。

臨床評価では、通常のTKRに比べその対象の骨破壊にともなう変形などが強い。しかし、術後の内・外反変形、側方動揺性ともよく改善され、ほぼ満足すべき結果が得られた。

X線学的計測では、多数例である内側骨欠損22膝の骨欠損横径と深さの平均は、それぞれ25.9 mmと11.1 mmであった。移植骨は全例癒合しており、術直後各測定値とも目標の値の範囲内であった。術後と追跡時における大腿脛骨角および人工関節の脛骨板内側角は有意に減少したが、その変化は約2°と軽度であった。この脛骨板内側角の変化と骨欠損横径比、深さ比との間には、相関関係はなかった。脛骨板後方角には全経過中大きな変化は認めなかった。脛骨板内側角、大腿脛骨角の至適角度を満たすものとそうでないものとの間では現在のところ臨床評価には有意の差がなかった。内側骨欠損例4例（再置換1例を含む）に経時的な圧潰像を認めると同時に、大腿脛骨角、脛骨板内側角の変化を認めたが、いずれも慢性関節リウマチであり多関節罹患、高度の骨萎縮などのRA本来の病態によるものと考えられた。

論文審査の結果の要旨

本研究は人工膝関節置換に際して、脛骨側に骨欠損を有する例に自家骨移植を施し、その結果を追跡検討したものである。移植骨は全例癒合しており術後の内外反変形、側方動揺ともよく改善されほぼ満足する結果を得たものであって、人工膝関節置換について治療指針たりうる価値ある業績と認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。